

台・瑞大鴻

4N錫インゴット生産へ

来年、新工場の建設検討

【台湾・台北＝服部友裕】台湾で錫のリサイクルを手掛ける、瑞大鴻科技材料股份有限公司（本社＝桃園縣龍潭郷、陳舜元総経理）は、金属品位99・99%（ブローナイン）の錫インゴットの生産を目指す。その実現に向け、需要動向次第だが2016年竣工を目標に新工場の建設を検討している。また、16年3月にはインジウムと金の精錬設備の導入も計画しているほか、原料集荷のグローバル化を加速させる考え。これにより金属リサイクルのバリエーションを広げ、ユーザーニーズに即応可能な体制の構築を図る。

日本でも原料集荷推進

同社は1995年に「湾政府からリサイクル」指、錫のリサイクルを設立。2003年に台「指定工場の認定を受」本格的に開始した。主



錫リサイクル工場

要事業として錫再生地金や鉛再生地金、銀再生地金、14000

生地金などを生産し、硫酸亜鉛や硫酸銅なども取り扱う。直近の売上高は20億元（約80億円）。社員数は130人。ISO 9001およびISO 14001認証を取得

加えて、生産拡大に備え、原料集荷体制も強化する。台湾だけでなく日本、韓国、フィリピン、タイ、マレーシア、中東、欧州など世界各地から集荷を進めていく。日本との関係について陳総経理は「さらに友好関係を深め、より多くのビジネスチャンスを得ていきたい。錫のリサイクル原料の処理で困ったことがあれば、気軽に声をかけていただきた」と前向きに語った。

錫再生地金の生産量は2015年通期で、約3000トを見込んでおり、金属品位は現状で99・98%まで高めることができるとしている。ユーザーニーズの多角化を受け同社では金属品位99・99%のインゴットの供給を計画。現在、第4工場を新設する計画が立ち上がっている。今後の需要動向を見極めた上で、16年中の完成、稼働開始を目標に検討を進めていく方針。

16年3月には第2工場にインジウムと金の精錬設備の導入を予定。取り扱った動きの多様化に向けた動きを加速している。これにより台湾だけでなく、グローバルマーケットでの販売体制の強化にも努めていく。